

みどりの杜俳句会



ばら開く彼の軽やかな足音に	佐山けさ子
ばらの花盛りや雨の少し欲し	飯野はつ志
小町草指に触れみる茎粘る	鈴木 啓子
山肌に可憐やさつき咲きはじむ	今村千鶴子
念入りに掃きありさつきの零れ花	梅澤きくえ
円となり若葉の下に運動会	田村 好子
真つ直ぐに濃き紫やかきつばた	梅沢 時江
杜の庭白花しらんの白さかな	西 ツル
手折り来てコップに紅白しらんな	吉田 愛子
桜草小花の揃ひ庭日向	高橋 ツ子
濃き赤のポピー続くや峠道	関口 侑子
十薬葉二三枚浮く手水鉢	小宮 勉
徒長枝の伸ぶるままなり梅香る	土屋 厚子
露味噌の手作り添へて母見舞ふ	初雁 功子
朝雨の玉の零れず柿若葉	山田 美子
若葉風木下の漏れ日揺らぎけり	野口利江子

人権シリーズ

「人権の世紀に」

(415)

「二十一世紀は、人権の世紀」と言われ、人権尊重の重要性が叫ばれてきました。しかし、人権尊重をうたいながら世界に目を向けると、何の罪もない人の命を奪う戦争や弾圧、身近な所でも、人の命を簡単に奪うような凶悪事件、小さな子供や高齢者への虐待、何のいわれもない差別や偏見等も数多くあります。

それでは、このような状況の中、今私達には何が求められているのでしょうか？「世界人権宣言十周年を祝う国連会議」においてエレノア・ルーズベルトが次のようにスピーチしています。

「普遍的な人権とはどこで始まるのでしょうか。それはごく身近な小さな場所：世界のどんな地図でも見つけられないほど身近で小さな場所から始まるのです。（途中略）そうした場所こそ、あらゆる男性、女性、子どもが差別のない平等な正義、平等な機会、平等な尊厳を求める場所なのです。これらの権利がそこで意味を持たないとしたら、それらはどこでもほとんど意味がないでしょう。身近なところでそれらを指示するために団結した市民の行動がなければ、私達がそれより大きな世界に進んでいくとしても徒労におわります。」

彼女の言葉にあるように、私達には今、「一人一人の力は僅かであっても、決して無関心にならず、諦めずに平等な正義、機会、尊厳を団結して指示していくこと」が望まれているのではないのでしょうか。

学校教育指導員 櫻井 仁志

アートの世界

萩平の道路わきで見たヤマユリと美しい夏の夜空を描いた作品で、2021年、東京都美術館での展覧会に出品した作品です。

美しい星座とそこで見たヤマユリは、花言葉のとおり旺盛で清らか。その背景に、天野川をはさんでデネブ、ベガ、アルタイルが創る夏の大三角形が輝くのを見たとき、私が暮らすこの里も、宇宙の一部であることを実感させ、身体に力がみなぎるのを実感しました。



「ふるさとの宙（萩平）」
作者 版画を楽しむ会
高野 勉さん（安戸）